

## 日本での私の故郷<和歌山>

李 真禧

(韓国・交換留学生・慶北大学校)

私は、今年4月和歌山に着いた。あれからもう3か月が過ぎた。その間、そんなに長くない時間だが、私は、様々なことについて感じ、和歌山に対して愛着がでてきた。まるで、日本での私の故郷のような親しい感じがする。環境もよいし、人々も優しいし、本当に住みよいところだと思った。

和歌山は他の地域と比べると、和歌山ならではの特色をよく生かしていると思った。特産品のミカンや梅干しだけではなく、和歌山の自然環境をしっかりと守って、それを観光に活用しているのが印象的だった。海と山があり、市内には城もあって、現在と昔の歴史が共存している感じがきわめて素晴らしかった。私の故郷は盆地で、海や川などをめったに見ることができないので、和歌山に来て、毎日海を見ることができて、本当に嬉しかった。いつも、休養地にいるようで幸せだった。

多くの学生達が今の私のように交換留学生として来て会館に住み、帰国しても大学院生になって、また和歌山に戻って来る理由が分かる気がした。私も、もう帰りたくないほど楽しい生活をしている。



次に、和歌山の市民たちは自分の地域について強い誇りを持っているらしい。これは見習う価値があると思う。正直言うと、私は日本に来る前に韓国にある私の故郷だけではなく、韓国についても分からないことばかりだった。私は韓国人で韓国に住んでいるのに、自分の国については何にも関心がなかったが、日本に来て私の国について紹介する機会がたくさんあったので、じっくりと自分の国に対して考える機会ができた。日本に来て始めて自己発見ができたのである。最初に、韓国のことについて聞かれたとき私はなにも分からなくて、本当に恥ずかしかった。これから、しっかり勉強しなければならないと思った。一方、和歌山の人たちは皆、地元の古城について関心をもって、守って行こうという気持ちが感じられた。

だんだんと日が経つにつれ、日本人に対して私の認識が変わった。日本に来る前には、日本人のイメージは、冷たくてあまり優しくなさそうだった。しかし、実際に日本に来て色々な人たちと出会ったら、それは私の先入観だったことに気がついた。皆笑顔で優しくしてくれるし、いつも元気な姿がとても好きになった。和歌山に住んでいる人たちは、特別な心配もなく、のんびり生活をしているように見えた。その人たちを見ると私まで幸せになった。



さて、和歌山がもっと住みよいところになるためには、交通を整える必要があると思う。和歌山の中心街は道路がよく整備されているが、そこから少し入ったらすぐ狭い道になる。特に、和歌山は高齢者たちがたくさん住んでいるから、その人たちのためにも、道路や交通表示板を新しく作る必要がある。そして、バスの数も増やし、値段も下げて多くの人たちが移動しやすいように交通にもっと関心をもつべきだ。交通が便利になると、環境にもいいはずだ。そうすると、和歌山は交通の中心地になって昔のように繁栄した和歌山になると思う。以上が私の提言である。